

## 平成30年度市長出前講座

1. 日 時： 平成31年1月24日（木） 18時33分～19時08分
2. 場 所： 沖見屋
3. 出席者： 申込団体：南房総市朝夷商工会女性部 33名  
千葉工業大学 学生3名  
市 側：市長、市民課押元副主査、秘書広報課杉田課長補佐
4. テーマ： これからの南房総市のまちづくりについて
5. 概 要： 市長講話

以前、同じ席で話をした電子地域通貨の導入を考えたいということについては、その後、地域で導入するにはシステムの中核となる金融機関が必要なことから、地元金融機関に相談、協議をした。結論として、本市では、投資に見合った効果が期待できないだろうということで、断念するに至った。

市では、キャッシュレス決済について進めていく。外国人の観光客や労働者を国全体として受け入れようとしており、そのような人々が間違いなく増加する。外国人は、日本以上にキャッシュレスで売買、消費をしているので、日本全体が、私たちの地域も然り、対応していかなければならない。今でも様々な仕組みがあり、競合、乱立している中で、何を選択すれば一番有利なのか、わかりづらい。実は官民が参画してキャッシュレス決済を進める研究会があって、昨年本市も加入した。大手の金融機関や企業が入っており、自治体参加は少ないが、市では、いち早く研究成果を導入できればという思いもあった。遠くない時期に日本全体がキャッシュレスに対応する必要がある。しかし今はまだどんなシステムが効果的かはっきり言えず、市として補助制度を打ち出せない状況にある。

市政の方向性として、多くの課題、例えば高齢者の増加に対応した福祉や地域づくりも大事であるが、地域全体としては、若年人口を増やすことが最重要課題と捉えている。若年者に選ばれる市、子どもを産み育てたいと思える環境をつくっていくことが最重要と考えている。予算に限りがあり他の自治体と比較して特別にどこまでできるか、ということであるが、新年度、東京圏から地方へ移住を促進する国の政策として、東京都で働いている人が地方へ移住し、就職する場合、世帯で移住する場合が最高限度額で、その個人に100万円を補助しましょうという制度を市は実施する。これには市の負担を伴う。さらに、移住先で起業する場合は、最高額で200万円を上乗せ、300万円を補助しましょうという制度を実施する。負担を伴うが、東京一極集中から地方へ人の流れを作ろうという事業に南房総市でも手を挙げる。以前から市では40歳未満の転入者に限定して住宅の建築に200万円の補助をしているが、このうち100万円まで国の移住施策と併給して補助をする。それ以外に市には移住者の起業に係る設備投資に最高100万円の補助があり、実際に利用して県外から家族で飲食店を開業した例もあるが、新たな国の施策と合わせ、全て条件が合致した場合、最高500万円までの補助をすることになる。破格

の補助ではあるが、東京圏から若年層の移住を促進していきたい。

日本国中で労働力不足が叫ばれている。ハローワーク館山の昨年秋の平均求人倍率は、2倍を超えて高くなっている。業種にもよるが、この地域でも人手不足の状況であり、経済が減速し始めているという地元金融機関の経済状況分析がある。先に述べた施策とは別に就学奨励金も実施し、労働力不足を解消し、移住者を増やしていきたいと思っている。

和田地区では、学校閉校後の跡地利用について、具体的にはまだ言い切れないが、南三原小学校は、学校施設を取り壊し、地域の方々が集える公園のようなコミュニティの場に変えていきたい。和田小学校は、公共的に使用していきたい。体育館は、残し、その他の施設は取り壊す。以上の内容については、本日、和田地区に回覧した。

南小学校の閉校に伴う跡地については、企業誘致に活用したい。市が貸事務所を建設し、地方創生の取り組みの中で過疎債を活用し、国が事業費の7割を充当する有利な財源を使う。これから公募により企業を募る。数十人規模の雇用を創出する計画を持つ企業を誘致できればと考えている。校舎、体育館は、建築から50年を経過、老朽化しており取り壊し、グラウンドに貸事務所を建設する新たな事業を展開したい。本日、丸山地区に回覧した。

千倉地区では、忽戸小学校跡地活用について、昨年活用案を公募し、何件か提案をいただいております。来年度前半までに提案者と協議したうえで採否を判断する。今回の提案への対応を含め、任期中に目処をつけていきたいと思っている。

白浜地区では、フローラルホールをダンスホールとして活用しているが、今後も継続をするか否か、現在の活用者と協議しながら平成32年度いっぱいまでに判断する。

朝夷地区のバス路線が見直しになる。館山―平館間、千倉―白浜間の路線があるが、両方とも不採算路線で赤字額が大きくなり、このままでは維持できない。バス会社と協議して館山―平館間は、館山―白浜間まで延ばし、千倉駅を経由する。一方、千倉―白浜間の路線は本数を間引く。但し、全体の便の総数は維持する。

白浜―亀田間の路線は廃止させていただきたい。現在往復各2本、平均4. 数人が利用している状況である。鴨川市側の反応は、「便の廃止は仕方ない。」とバス会社から聞いている。本市が、本便を維持するためにお金を工面することは、意味合いとしては、亀田総合病院の送迎バス運行を市が負担することとなるため、できない。その代り、バスとJRとの接続が悪かったので、バス会社へ接続を考えた運行時間にするよう強く要望している。少しでも接続を良くする中で、不便になる部分をご理解いただきたい。

新年度の財政的なやりくりについて、以前から蓄えをしている旨申し上げているが、国からの交付金や補助金は有効に使い、予算を必要なところに投資していきたい。少しでも子育て世代や若い人に魅力的と思ってもらえる環境づくり、雇用を生み出す支援策により、人を呼び込める地域づくりをしていきたい。

商工会女性部のカレンデュラの取り組みについて、花の栽培による景観形成や花自体の効能が認められているという話は、承知している。地域資源を生かした商品化の取り組みは、南房総産ビジネスクラブ等にて進められている。市としては、地域素材を生かした商品開発、販路開拓は、これからもできる限り協力していきたい。商品アイテムに関しては、女性ならではの柔軟な発想を持って、商品の多様化、工夫をこれからも重ねていただくとありがたい。栽培面積を増やしていきたいという考えを持っているが、現実には、まとまった農地を借りることに制約があり、壁となっている。市が主体となって花栽培の歯車を回すには、財政的にもすぐに結論を出せないが、知恵を絞っていきたい。皆様からも提案をしていただきたい。

国でも女性活躍社会と言われ、特別言うこと自体どうかとは思いますが、女性が暮らしやすい、働きやすい環境をつくる必要があると思っている。今の予定では、平成31年10月から幼保無償化が始まる。幼稚園の保育料が無償になり、保育園の保育料は、非課税世帯が無償となる。経済負担を軽くして暮らしやすい、女性が働きに出やすい環境につなげていくことになると思うが、制度としてスタートするので、本市でも引き続き女性が活躍しやすい環境づくりを支援していきたい。